

## リスク評価候補物質(化審法のスクリーニング評価における発がん性クラスが1又は2の物質)

(1)平成23年1月21日化学物質調査会(※)資料より抜粋

指定/二No.	三No.	名 称	発がん性 クラス	規制状況(※※) 又は 有害物ばく露作業報告実施年	IARC発がん性評価	CAS番号	SDS交 付対象	備 考	IARCが1~2 Bでなく、SDS 交付対象	規制あるが特 別管理物質 非該当
	161	クロロホルム	2	有機則対象(25年度リスク評価 済み)	2B					
5		1, 2-ジクロロエタン	2	有機則対象(25年度リスク評価 済み)	2B					
	76	4, 4'-ジアミノ-3, 3'-ジクロロジフェニルメタン (別名4, 4'-メチレンビス(2-クロロアニリン))	1	特化則対象 特定第二类(特別 管理物質)	1					
8		1, 4-ジオキサン	2	有機則対象(26年度リスク評価 予定)	2B					
	109	3, 3'-ジクロロベンジジン	2	特化則対象(製造許可物質)	2B					
3	105	4, 4'-ジアミノジフェニルメタン(別名4, 4'-メチレ ンジアニリン)	2	平成20年	2B					
368		1, 3-ブタジエン	1	平成18年→特化則改正済み	1					
369		イソプレン	2	平成20年	2B					
371	160	ジクロロメタン(別名塩化メチレン)	2	平成26年	2B					
377		クロロエチレン(別名塩化ビニル)	1	特化則対象(特別管理物質)	1					
389	173	チオ尿素	2		なし	62-56-6	●	産衛学会2B、NTP R、EU 3	●	
794	24	p-ジクロロベンゼン	2	平成21年	2B					
1000	233	ナフタレン	2	平成21年	2B					
1022		エチレンオキシド	1	特化則対象(特別管理物質)	1					
1023		1, 2-エポキシプロパン(別名酸化プロピレン)	2	平成20年→特化則改正済み	2B					
1030		ホルムアルデヒド	1	平成18年→特化則改正済み	1					
1031		アセトアルデヒド	2	平成21年	2B					
1040		酢酸ビニル	2	平成21年	2B					
1057		アクリロニトリル	2	特化則対象(第二类物質)	2B					○
1063		ベンゼン	1	特化則対象(第二类物質)	1					⊖
1065		スチレン	2	有機則対象(25年度リスク評価 済み)	2B					
1066		エチルベンゼン	2	平成21年→特化則改正済み	2B					
1067		ベンジルクロリド(別名塩化ベンジル)	2	平成18年	2A					
1068		アニリン	2	平成24年(神経毒性で選定)	3					
1077		フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	2	平成23年	2B					
367	39	ヒドラジン	2	平成20年	2B					
381	164	1, 3-ジクロロプロペン(別名D-D)	2	平成21年	2B					
402	34	o-トルイジン	1	平成19年	2A					
409		ニトロベンゼン	2	平成21年	1					
412	25	ジニトロトルエン	2	平成20年	2B					
802		ニトリロ三酢酸	2		2B		●	26.7企画検討会で検討予定		
983		ニトロメタン	2	平成21年	2B					
1024		1, 2-エポキシブタン	2	平成27年	2B					

1026		エピクロロヒドリン	2	平成18年	2A					
1044		アクリル酸エチル	2	平成21年	2B					
1046		アクリルアミド	2	特化則対象(第二類物質)	2A					○
1071		ピロカテコール(別名カテコール)	2	平成21年	2B					
383	169	1, 1-ジメチルヒドラジン	2	平成20年→特化則改正済み	2A					
397	47	りん酸ジメチル=2, 2-ジクロロビニル(別名ジクロロボス又はDDVP)	2	平成21年	2B					
419	209	テトラクロロイソフタロニトリル(別名クロロタロニル又はTPN)	2		2B	1897-45-6	×			
425	126	4-ビニル-1-シクロヘキセン	2	平成21年	2B					
433		1, 4, 5, 6, 7, 7-ヘキサクロロビシクロ[2. 2. 1]-5ヘプテン-2, 3-ジカルボン酸(別名クロレンド酸)	2	平成27年	2B					
445	115	3, 3'-ジメチルベンジジン(別名o-トリジン)	2	特化則対象(製造許可物質)	2B					
797		2, 6-ジメチルアニリン (2, 6-キシリジン)	2	平成21年	2B					
821		4, 4'-メチレンビス(N, N-ジメチルアニリン)	2		2B	101-61-1	×			
976	163	ヘキサクロロエタン	2	平成21年、23年	2B					
980		1, 2, 3-トリクロロプロパン	2	平成19年	2A					
996		o-ニトロアニソール	2	平成20年	2B					
997	131	2, 4-ジクロロフェノール	2		なし	120-83-2	×			
1008		フラン	2		2B	110-00-9	×			
1013		3-クロロ-2-メチル-1-プロペン	2		3	563-47-3	×			
1060		2, 3-エポキシ-1-プロパノール	2	平成19年	2A					
1073		2, 3-エポキシプロピルフェニルエーテル	2	平成20年	2B					
1074		o-アニシジン	2	平成20年	2B					
1091		エチレンイミン	2	特化則対象 特定第二類(特別管理物質)	2B					

(2) 平成24年1月27日化学物質調査会(※)資料より抜粋

官報公示番号 (MITI番号)	名称	発がん性 クラス	規制状況(※※) 又は 有害物ばく露作業報告実施年	IARC発がん性 評価	CAS番号	SDS交 付対象	備 考	IARCが1~2 Bでなく、SDS 交付対象	規制あるが特 別管理物質 非該当
2-302	ジエタノールアミン	2	平成27年	2B					
1-115	臭素酸ナトリウム	2		なし	7789-38-0	×			
2-3220	tert-ブチル=メチル=エーテル	2		3	1634-04-4	●	ACGIH A3	●	
5-40	フルフラール	2		3	98-01-1	●	ACGIH A3, EU 3	●	

(3) 平成24年7月27日化学物質調査会(※)資料より抜粋

CAS番号	名称	発がん性 クラス	規制状況(※※) 又は 有害物ばく露作業報告実施年	IARC発がん性 評価	CAS番号	SDS交 付対象	備 考	IARCが1~2 Bでなく、SDS 交付対象	規制あるが特 別管理物質 非該当
77-78-1	硫酸ジメチル	2	特化則対象(第二類物質)	2A	77-78-1	●			○
78-59-1	1, 5, 5-トリメチル-1-シクロヘキセン-3-オン(イソホロン)	2		なし	78-59-1	●	ACGIH A3, EU 3	●	
95-48-7	o-クレゾール	2	有機則	なし	95-48-7	●	EPA C	●	○
108-10-1	メチルイソブチルケトン	2	有機則対象(25年度リスク評価済み)	2B	108-10-1	●			

108-94-1	シクロヘキサノン	2	有機則	3	108-94-1	●	ACGIH A3	●	○	
109-99-9	テトラヒドロフラン	2	有機則	なし	109-99-9	●	ACGIH A3, EU 3	●	○	
111-76-2	2-ブトキシエタノール	2		3	111-76-2	●	EPA C, ACGIH A3	●		
112-07-2	2-ブトキシエチル=アセタート	2		3	112-07-2	×	ACGIH A3			
584-84-9	4-メチル-1, 3-フェニレン=ジイソシアナート	2	特化則対象(第二類物質)	2B	26471-62-5	●			○	
5064-31-3	トリナトリウム=2, 2', 2''-ニトリロトリアセタート	2		2B	5064-31-3	×				
7803-49-8	ヒドロキシシロリン	2		なし	7803-49-8	×	—			
26471-62-5	メチル-1, 3-フェニレン=ジイソシアナート	2	特化則対象(第二類物質)	2B	26471-62-5	●			○	
91-08-7	2-メチル-1, 3-フェニレン=ジイソシアナート	2	特化則対象(第二類物質)	2B	91-08-7	●			○	
98-00-0	フルフリルアルコール	2		なし	98-00-0	●	EU 3	●		
98-01-1	フルフラール	2		3	98-01-1	●	ACGIH A3, EU 3	●		
98-82-8	クメン	2	平成23年	2B	98-82-8	●				
111-44-4	2, 2'-ジクロロジエチルエーテル	2		3	111-44-4	●	EPA B2, EU 3	●		
								合計	11	10

※: 正式名称は、「薬事・食品衛生審議会薬事分科会化学物質安全対策部会 化学物質調査会」。

※※: 労働安全衛生法に基づく特別規則による規制を示す。

職場で使用する化学物質の発がん性評価基準骨子(抄)

1. リスク評価対象物質の候補とすべきもの

(1) 以下に該当する物質については、リスク評価の対象物質の候補とし、発がん性のスクリーニングの対象から除外する

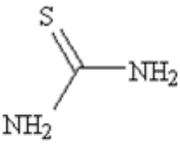
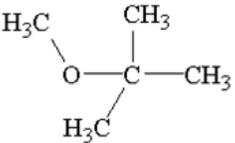
- ① IARCの発がん性評価区分の1~2Bに分類されているもの
- ② IARCの発がん性評価区分で1~2Bに分類されていないが、

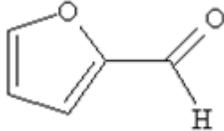
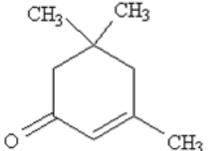
ア 化審法の一般化学物質等に関するスクリーニング評価において、発がん性クラスが1又は2と評価されたもの

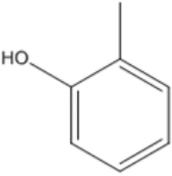
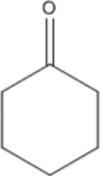
イ 他の関係機関等の発がん性評価区分、又は既存の発がん性に関する試験の結果等から、専門家の判断により、IARCの評価区分の1~2Bに相当すると判断されたもの  
(以下略)

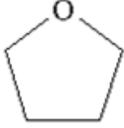
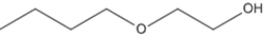
## 化審法スクリーニング評価における発がん性クラスが 1 又は 2 の物質

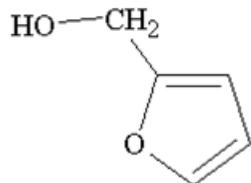
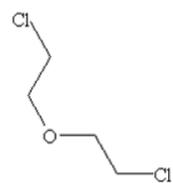
(IARC 発がん性分類 1～2 B 以外, SDS 交付対象)

No.	名称、CASNo.、構造式	物理・化学的性質 (※1)	用途及び製造量等 (※4)	発がん性評価区分 (※1, 4)	その他の有害性 (※1, 4) (GHS 分類が区分 1 のもの)	許容濃度等 (※2, 3)	備考
1	チオ尿素 (CAS 62-56-6) 	白色結晶又は粉末 融点 182°C (以下※4による) 沸点 — 蒸気圧 0.0028 mmHg (20°C)	ウレタン樹脂原料、医薬・染料・界面活性剤・殺鼠剤・金属防錆剤等 排出量 165 t (平成 24 年度)	IARC 79 3 (ヒトに対する発がん性について分類できない) EU 3 (動物試験からある程度の証拠があるが、2 に入れるには不十分) NTP R (ヒト発がん性があると合理的に予測される物質) 日本産業衛生学会 2B (ヒトに対しておそらく発がん性あり)	皮膚感受性 特定標的臓器・全身毒性 反復 ばく露 (甲状腺)	日本産衛学会 未設定 ACGIH 未設定	化審法優先評価化学物質 安衛令別表第 9 第 340 号 PRTR 法: 第 1 種指定化学物質
2	Tert-ブチル=メチル=エーテル (CAS 1634-04-4) 	特徴的な臭気のある無色の液体 融点 -109°C 沸点 55°C 蒸気圧 27kPa (20°C)	ガソリンのオクタン価向上剤 製造・輸入数量 5000t 以上 6000t 未満 (2012 年度)	IARC 73 3 (ヒトに対する発がん性について分類できない) ACGIH A3 (動物実験では発がん性が確認されたが、ヒトの発がん性との関連は未知)	吸引性呼吸器有害性	日本産衛学会 未設定 ACGIH TWA 50ppm A3 (2014 年版)	安衛令別表第 9 第 580 号 (メチルターシャリーブチルエーテル)

No.	名称、CASNo.、構造式	物理・化学的性質 (※1)	用途及び製造量等 (※4)	発がん性評価区分 (※1, 4)	その他の有害性 (※1, 4) (GHS分類が区分1のもの)	許容濃度等 (※2, 3)	備考
3	フルフラール(CAS 98-01-1) 	特徴的異な臭気のある無色～黄色の液体 融点 -36.5℃ 沸点 162℃ 蒸気圧 0.144kPa (20℃)	フラン樹脂原料、ブタジエン抽出溶剤、潤滑油精製、医薬品原料 製造・輸入数量 1000t以上2000t未満(2012年度)	IARC 63 3 (ヒトに対する発がん性について分類できない) EU 3 (動物試験からある程度の証拠があるが、2に入れるには不十分) ACGIH A3 (動物実験では発がん性が確認されたが、ヒトの発がん性との関連は未知)	特定標的臓器・全身毒性 単回ばく露 (呼吸器、肝臓) 反復ばく露 (呼吸器)	日本産業衛生学会 2.5ppm 9.8mg/m <sup>3</sup> (経皮吸収) ACGIH TWA 2ppm Skin: A3; BEI (2014年版)	安衛令別表第9第490号
4	1, 5, 5-トリメチル-1-シクロヘキセン-3-オン (CAS 78-59-1) Isophorone 	特徴的な臭気のある無色の液体 融点 -8℃ 沸点 215℃ 蒸気圧 40Pa (20℃)	塗料・農薬原料、溶剤 製造・輸入量 1,765 t (2012年度)	IARC データなし EU 3 (動物試験からある程度の証拠があるが、2に入れるには不十分) ACGIH A3 (動物実験では発がん性が確認されたが、ヒトの発がん性との関連は未知) EPA C (ヒト発がん物質の可能性あり)	(区分1はなし)	日本産衛学会 未設定 ACGIH STEL C 5 ppm A3 (2014年版)	安衛令別表第9第49号(イソホロン) PRTR法:第1種指定化学物質

No.	名称、CASNo.、構造式	物理・化学的性質 (※1)	用途及び製造量等 (※4)	発がん性評価区分 (※1, 4)	その他の有害性 (※1, 4) (GHS分類が区分1のもの)	許容濃度等 (※2, 3)	備考
5	o-クレゾール (CAS 95-48-7) 	Tokuyuuno 臭気のある無色の固体 融点 30℃ 沸点 191-192℃ 蒸気圧 0.2mmHg (20℃)	エポキシ樹脂・農薬・酸化防止剤・可塑剤・フェノール樹脂合成原料、電線ワニス溶剤、消毒液 排出量 37t (平成 24 年度)	IARC データなし EPA C (ヒト発がん物質の可能性あり) ACGIH A4 (ヒトに対する発がん物質として分類できない)	皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性特定標的臓器・全身毒性 反復ばく露 (心臓、中枢神経系、肝臓、腎臓、呼吸器)	日本産衛学会 5ppm、22mg/m <sup>3</sup> ACGIH TWA 20mg/m <sup>3</sup> (1FV) Skin:A4 (2014 年版)	化審法優先評価化学物質 安衛令別表第 9 第 141 号 PRTR法:第 1 種指定化学物質 第 2 種有機溶剤 (クレゾール)
6	シクロヘキサノン (CAS108-94-1) 	特徴臭のある無色の液体 融点 -32.1℃ 沸点 155.6℃ (760mmHg) 蒸気圧 4.33mmHg (25℃)	溶剤、カプロラクタム (合成樹脂・ナイロン原料) 原料 製造・輸入数量 51,625 t (2012 年度)	IARC 71 3 (ヒトに対する発がん性について分類できない) ACGIH A3 (動物実験では発がん性が確認されたが、ヒトの発がん性との関連は未知)	皮膚感作性 特定標的臓器・全身毒性 単回ばく露 (呼吸器系) 反復ばく露 (中枢神経系、骨)	日本産衛学会 25ppm 100mg/m <sup>3</sup> ACGIH TWA20ppm STEL 50ppm Skin:A3 (2014 年版)	化審法優先評価化学物質 安衛令別表第 9 第 231 号 第 2 種有機溶剤

No.	名称、CASNo.、構造式	物理・化学的性質 (※1)	用途及び製造量等 (※4)	発がん性評価区分 (※1, 4)	その他の有害性 (※1, 4) (GHS分類が区分1のもの)	許容濃度等 (※2, 3)	備考
7	テトラヒドロフラン (CAS109-99-9) 	エーテル類似 臭のある無色 液体 融点 $-108^{\circ}\text{C}$ 沸点 $65.4^{\circ}\text{C}$ 蒸気圧 $19.3\text{kPa}$ ( $20^{\circ}\text{C}$ )	合成樹脂・塗料・接着 剤溶剤、医薬・農薬製 造反応溶媒 製造・輸入数量 $32,590\text{ t}$ (2012年度)	IARC データなし EU 3(動物試験からあ る程度の証拠がある が、2に入れるには不 十分) EPA 発がん性を示 唆する物質 ACGIH A3(動物実験 では発がん性が確認 されたが、ヒトの発が ん性との関連は未知)	特定標的臓器・全身毒性 反復ばく露(肝臓、腎臓、神 経系)	日本産衛学会 $200\text{ppm } 590\text{mg/m}^3$ ACGIH TWA $50\text{ppm}$ STEL $100\text{ppm}$ Skin:A3 (2014年版)	化審法優先評価化学物質 安衛令別表第9第367号 第2種有機溶剤
8	2-ブトキシエタノール (CAS111-76-2) 	特徴臭のある 無色の液体 融点 $-75^{\circ}\text{C}$ 沸点 $171-172^{\circ}\text{C}$ 蒸気圧 $0.88\text{mmHg}$ ( $25^{\circ}\text{C}$ )	塗料、印刷インキ、染 料、農薬溶剤 製造・輸入数量 $27,163\text{ t}$ (2012年度)	IARC 88 3 ACGIH A3(動物実験 では発がん性が確認 されたが、ヒトの発が ん性との関連は未知)	特定標的臓器・全身毒性 単回ばく露(中枢神経系、血 液、肝臓、腎臓)	日本産衛学会 未設定 ACGIH TWA $20\text{ppm}$ A3;BEI (2014年版)	化審法優先評価化学物質 安衛令別表第9第79号(エ チレングリコールモノ-ノ ルマル-ブチルエーテル)

No.	名称、CASNo.、構造式	物理・化学的性質 (※1)	用途及び製造量等 (※4)	発がん性評価区分 (※1, 4)	その他の有害性 (※1, 4) (GHS分類が区分1のもの)	許容濃度等 (※2, 3)	備考
9	フルフリルアルコール (CAS 98-00-0) 	特徴的な臭気のある無色の液体 融点 -15℃ 沸点 170℃ 蒸気圧 53Pa (20℃)	フラン樹脂原料、樹脂変性剤、溶剤 製造・輸入数量 8000t以上9000t未満(2012年度)	IARC データなし EU 3(動物試験からある程度の証拠があるが、2に入れるには不十分)	特定標的臓器・全身毒性 反復ばく露(呼吸器)	日本産衛学会 5 ppm 20 mg/m <sup>3</sup> ACGIH TWA 10ppm STEL 15ppm Skin (2014年版)	安衛令別表第9第491号
10	2,2'-ジクロロジエチルエーテル (CAS111-44-4) 	特徴的な臭気のある透明な無色の液体 融点 -50℃ 沸点 178℃ 蒸気圧 0.206kPa (25℃)	油脂類溶剤、有機合成中間体、くん蒸剤 データなし	IARC 71 3 EU 3 EPA B2(おそらくヒト発がん性物質(動物での十分な証拠あり)) ACGIH A4(ヒトに対する発がん物質として分類できない)	急性毒性(吸入;蒸気) 特定標的臓器・全身毒性 単回ばく露(呼吸器)	日本産衛学会 15ppm 88 mg/m <sup>3</sup> 経皮吸収 ACGIH TWA 5ppm STEL 10ppm Skin; A4	安衛令別表第9第453号 (ビス(2-クロロエチル)エーテル)

※1 職場のあんぜんサイト(厚生労働省HP)のモデルSDS情報

※2 日本産業衛生学会の許容濃度の勧告(2013年度)

※3 2014 ACGIH 化学物質のTLVs (ACGIHのばく露限界値)

TWA: 8時間時間加重平均, STEL: 短時間ばく露限界, Skin: 経皮吸収, BEI: 生物学的ばく露指標あり

A3,A4: 発がん性分類(発がん性の欄参照)

※4 化学物質総合情報提供システム(CHRIIP)

リスク評価候補物質

②平成25年度文献調査結果から(平成23年度の医薬食品局の文献調査結果を活用した詳細調査)

受償データ整理番号	CAS番号	物質名	英名	IARC	評価の組合せ	評価の内容	対応
-----------	-------	-----	----	------	--------	-------	----

●IARCのみ評価あり、IARCが1～2B

【14物質、うち2物質は特別管理物質として規制済みのためリスク評価不要 ⇒ 12物質が候補】

341	1317-36-8	酸化鉛	Lead oxide	2A	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
517	10026-22-9	硝酸コバルト(Ⅱ)・六水和物	Cobalt(Ⅱ) nitrate hexahydrate	2B	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
518	10026-24-1	硫酸コバルト(Ⅱ)・七水和物	Cobalt(Ⅱ) sulfate heptahydrate	2B	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
582	13814-96-5	ビス(テトラフルオロホウ酸)鉛	Lead bis(tetrafluoroborate)	2A	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
DG-146	12070-12-1	炭化タングステン	Tungsten carbide (WC)	2A	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
DG-477	68603-42-9	データなし	Amides, coco, N,N-bis(hydroxyethyl)	2B	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
DG-523	7631-99-4	硝酸ナトリウム	Sodium nitrate	2A	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
DG-524	7632-00-0	亜硝酸ナトリウム	Sodium nitrite	2A	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
DG-542	7757-79-1	硝酸カリウム	Potassium nitrate	2A	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
DG-674	6484-52-2	硝酸アンモニウム	Ammonium nitrate	2A	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
DG-733	7446-14-2	硫酸鉛(Ⅱ)	Sulfuric acid, lead(2+) salt (1:1)	2A	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ
DG-753	10042-84-9	ニトリロ三酢酸のナトリウム塩	Sodium salt of nitrirotriacetic acid	2B	IARCのみ評価あり	IARCが1～2B	リスク評価候補物質へ

⇒	特化則の特別管理物質	※リスク評価不要
⇒	特化則の特別管理物質	※リスク評価不要

No	通し番号		物質特定			発がん性評価										評価結果まとめ			詳細調査		
	発がん性調査通し番号	受償データ整理番号	CAS番号	物質名	英名	IARC		EPA		NTP		ACGIH		日本産業衛生学会		EU	評価の組合せ	評価の内容	対応	備考-1	追加文献有無

●両方の評価あり、IARCが1～2B、他機関がIARCの1～2B相当

【19物質、うち9物質は特別管理物質として規制済みのためリスク評価不要 ⇒ 10物質が候補】

58	C-1058	336	1313-99-1	一酸化ニッケル	Nickel oxide	1	2012	49,100C	A	1991	K	2002	A1		x	-	1	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、EPA、NTP、ACGIH、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		不要	EPA "Nickel refinery dust"として Category 1、NTPの
59	C-1059	347	1327-53-3	三酸化二ヒ素	diarsenic trioxide; arsenic trioxide	1	2012	2, Sup 7, 100C	A	1986	K	1980	A1	1992	1	2000	1	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、EPA、NTP、ACGIH、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		不要	IARC、NTP、ACGIH、EPAの分
60	C-1060	455	6018-89-9	酢酸ニッケル四水和物	Nickel acetate hydrate	1	2012	49,100C	A	1991	K	2002	A4	1989	x	-	x	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、EPA、NTPも同程度	リスク評価候補物質へ		不要	EPA "Nickel refinery dust"として Category 1を追記他 IARC、NTP

⇒	特化則の特別管理物質	※リスク評価不要
⇒	特化則の特別管理物質	※リスク評価不要
⇒	特化則の特別管理物質	※リスク評価不要

62	C-1062	523	10101-97-0	硫酸ニッケル Nickel sulfate	1	2012	49,100C	A	1991	K	2002	A4	1989	x	-	x	両方評価あり	IARCが1~2Bであり、EPA、NTPも同程度	リスク評価候補物質へ	不要	EPA "Nickel refinery dust"としてCategory 1を通記他IARC、NTPを通記。ACGIHでは、硫酸ニッケルは"soluble compounds"に分類され、"A4"に分類されているため"1"から変更	⇒	特化則の特別管理物質	※リスク評価不要	
63	C-1063	541	10588-01-9	重クロム酸ナトリウム sodium dichromate	1	2012	49,100C	A (inhal) D (oral)	1998	K	1980	A1	1994	第1群	1989	2	両方評価あり	IARCが1~2Bであり、EPA、NTP、ACGIH、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ	不要	EPA(暴露経路により分類が違う)、NTP、ACGIHの分類を通記。ACGIHについては要確認	⇒	特化則の特別管理物質	※リスク評価不要	
64	C-1064	551	12054-48-7	水酸化ニッケル Nickel hydroxide	1	2012	49,100C	A	1991	K	2002	A1		x	-	1	両方評価あり	IARCが1~2Bであり、EPA、NTP、ACGIH、EUも1~2B相当	評価書を入力	不要	IARC Group 1を通記	⇒	特化則の特別管理物質	※リスク評価不要	
65	C-1065	568	13138-45-9	硝酸ニッケル Nickel nitrate	1	2012	49,100C	A	1991	K	2002	A4	1989	x	-	1	両方評価あり	IARCが1~2Bであり、EPA、NTP、EUも1~2B相当	評価書を入力	不要	ACGIHの分類を通記	⇒	特化則の特別管理物質	※リスク評価不要	
66	C-1066	573	13478-00-7	硝酸ニッケル6-水和物 Nickel nitrate hexahydrate	1	2012	49,100C	A	1991	K	2002	A4	1989	x	-	x	両方評価あり	IARCが1~2Bであり、EPA、NTPも1~2B相当	評価書を入力	不要	ACGIHでは、硫酸ニッケルは"soluble compounds"に分類され、"A4"に分類されているため"1"から変更	⇒	特化則の特別管理物質	※リスク評価不要	
67	C-1067	754	64742-89-8	ソルベントナフサ Solvent naphtha (petroleum), light aliph. Low boiling point naphtha: [A complex combination of hydrocarbons obtained from the distillation of crude oil or natural gasoline. It consists predominantly of saturated hydrocarbons having carbon numbers predominantly in the range of C5 through C10 and boiling in the range of approximately 35degreeC to 160degreeC (95degreeF to 320degreeF)]	2B	1989	45	x	-	x	-	A3	1995	第2群B	1985	2	両方評価あり	IARCが1~2Bであり、ACGIH、産衛学会、EUも1~2B相当	評価書を入力	有					
68	C-1068	755	64742-90-1	Residues (petroleum), steam-cracked; Heavy Fuel oil: [A complex combination of hydrocarbons obtained as the residual fraction from the distillation of the products of a steam cracking process (including steam cracking to produce ethylene). It consists predominantly of unsaturated hydrocarbons having carbon numbers predominantly greater than C14 and boiling above approximately 260degreeC (500degreeF). This stream is likely to contain 5 wt. % or more of	2B	1989	45	x	-	x	-	x		x	-	2	両方評価あり	IARCが1~2Bであり、EUも1~2B相当	評価書を入力	有					

69	C-1069	862	101316-71-6	chromating oils (petroleum), C20-35, solvent-extd., dewaxed, hydrogenated; Baseoil - unspecified; [A complex combination of hydrocarbons obtained by solvent extraction and hydrogenation of atmospheric distillation residues. It consists predominantly of hydrocarbons having carbon numbers predominantly in the range of C20 through C35 and produces a finished	1 (untreated or mildly treated), 3 (highly refined)	2010	33, 100F	x	-	K(Untreated and Mildly Treated)	2011	A2(poorly and mildly refined), A4(pure, highly and severely refined)	2003	第1群(未精製および半精製品)	1977	2	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、NTP、ACGIH、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		有	
80	C-1080	DG-203	1333-82-0	無水クロム酸	chromium (VI) trioxide	1	2012	49, 100C	A (inhal) D (oral)	1998	K	1980	A1	1994	第1群	1989	1	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、EPA、NTP、ACGIH、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		不要
82	C-1082	DG-442	64741-96-4	chromating oils (petroleum), solvent-refined heavy naphthenic; Baseoil - unspecified; [A complex combination of hydrocarbons obtained as the raffinate from a solvent extraction process. It consists of hydrocarbons having carbon numbers predominantly in the range of C20 through C50 and produces a finished oil with a viscosity of at least 100 SUS at 100degreeF (19cSt a	1 (untreated or mildly treated), 3 (highly refined)	2010	33, 100F	x	-	K(Untreated and Mildly Treated)	2011	A4	2003	第1群(未精製および半精製品)	1977	2	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、NTP、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		有	
83	C-1083	DG-443	64742-52-5	chromating oils (petroleum), hydrotreated heavy naphthenic; Baseoil - unspecified; [A complex combination of hydrocarbons obtained by treating a petroleum fraction with hydrogen in the presence of a catalyst. It consists of hydrocarbons having carbon numbers predominantly in the range of C20 through C50 and produces a finished oil of at least 100 SUS at 100degreeF (19cSt at 40degreeC). It contains	1 (untreated or mildly treated), 3 (highly refined)	2010	33, 100F	x	-	K(Untreated and Mildly Treated)	2011	A4	2003	第1群(未精製および半精製品)	1977	2	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、NTP、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		有	
84	C-1084	DG-444	64742-53-6	chromating oils (petroleum), hydrotreated light naphthenic; Baseoil - unspecified; [A complex combination of hydrocarbons obtained by treating a petroleum fraction with hydrogen in the presence of a catalyst. It consists of hydrocarbons having carbon numbers predominantly in the range of C15 through C30 and produces a finished oil with a viscosity of less than 100 SUS at 100degreeF (19cSt at 40degreeC). It contains relatively few normal	1 (untreated or mildly treated), 3 (highly refined)	2010	33, 100F	x	-	K(Untreated and Mildly Treated)	2011	A4	2003	第1群(未精製および半精製品)	1977	2	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、NTP、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		有	
85	C-1085	DG-445	64742-54-7	chromating oils (petroleum), hydrotreated heavy paraffinic; Baseoil - unspecified; [A complex combination of hydrocarbons obtained by treating a petroleum fraction with hydrogen in the presence of a catalyst. It consists of hydrocarbons having carbon numbers predominantly in the range of C20 through C50 and produces a finished oil of at least 100 SUS at 100degreeF (19cSt at 40degreeC). It contains a	1 (untreated or mildly treated), 3 (highly refined)	2010	33, 100F	x	-	K(Untreated and Mildly Treated)	2011	A4	2003	第1群(未精製および半精製品)	1977	2	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、NTP、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		有	

⇒ 特化則の特別管理物質 ※リスク評価不要

86	C-1086	DG-446	64742-57-0	Residual oils (petroleum), hydrotreated; Baseoil - unspecified; [A complex combination of hydrocarbons obtained by treating a petroleum fraction with hydrogen in the presence of a catalyst. It consists of hydrocarbons having carbon numbers predominantly greater than C25 and boiling above approximately	1 (untreated or mildly treated), 3 (highly refined)	2010	33, 100F	x	-	K(Untreated and Mildly Treated)	2011	A4	2003	第1群(未精製および半精製品)	1977	2	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、NTP、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		有
87	C-1087	DG-447	64742-95-6	Solvent naphtha (petroleum), light arom.; Low boiling point naphtha - unspecified; [A complex combination of hydrocarbons obtained from distillation of aromatic streams. It consists predominantly of aromatic hydrocarbons having carbon numbers predominantly in the range of C8 through C10 and boiling in the range of approximately 135degreeC to 210degreeC (275degreeF to 410degreeF).]	2B	1989	45	x	-	x	-	A3	1995	第2群B	1985	2	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、ACGIH、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		なし
95	C-1095	DG-755	101316-72-7	Lubricating oils (petroleum), C24-50, solvent-extd., dewaxed, hydrogenated; Baseoil - unspecified; [A complex combination of hydrocarbons obtained by solvent extraction and hydrogenation of atmospheric distillation residues. It consists predominantly of hydrocarbons having carbon numbers predominantly in the range of C24 through C50 and produces a finished oil with a viscosity in the order of 16cSt to 75cSt at 40degreeC.(104degreeF).]	1 (untreated or mildly treated), 3 (highly refined)	2010	33, 100F	x	-	K(Untreated and Mildly Treated)	2011	A2(poorly and mildly refined), A4(pure, highly and severely refined)	2003	第1群(未精製および半精製品)	1977	2	両方評価あり	IARCが1～2Bであり、NTP、ACGIH、産衛学会、EUも同程度	リスク評価候補物質へ		有

## リスク評価候補物質

## ③平成25年度文献調査結果から(平成22年度一般化学物質届出のうち、暴露クラスのクラス5, クラス外の物質の調査)

No	通し番号 2次調査 通し番号	1次調査と の重複	全物質 通し番号	物質特定		発がん性評価												評価結果まとめ				評価調査 追加文献 有無	備考-2			
				CAS番号	物質名	英名	IARC		EPA		NTP		AOGIH		日本産業衛生学会		EU		評価の組合せ	評価の内容	対応			備考-1		
							分類	評価年	vol	まとめ	criteria	分類	評価年	分類	評価年	分類	評価年	まとめ							評価年	
155	C-2155		S-1938	1344-37-2	C. I. ピグメント イエロー-34	Cl. Pigment Yellow 34	2A	2006	23, 87		2B	1993	R	2011	A2	1991	第2群B	1982	2	2009	両方評価あり	全機関がの評価がIARC評価書を入力			不要	
157	C-2157		S-3437	64741-88-4	ニュートラル 潤滑油用基油	Distillates (petroleum), solvent-refined heavy paraffinic	1,3	2010	33, 100F		なし		K	2011	A4	2003	第1群	1977	2		両方評価あり	IARC, EUが1~2B相当評価書を入力			有	カテゴリ
158	C-2158		S-3438	64741-89-9	Distillates (petroleum), solvent-refined light paraffinic	Distillates (petroleum), solvent-refined light paraffinic	1,3	2010	33, 100F		なし		K	2011	A4	2003	第1群	1977	2		両方評価あり	IARC, EUが1~2B相当評価書を入力			有	カテゴリ
159	C-2159		S-3441	64742-56-9	Distillates (petroleum), solvent-dewaxed light paraffinic	Distillates (petroleum), solvent-dewaxed light paraffinic	1,3	2010	33, 100F		なし		K	2011	A4	2003	第1群	1977	2		両方評価あり	IARC, EUが1~2B相当評価書を入力			有	カテゴリ
161	C-2161		S-3706	72623-85-9	Lubricating oils, petroleum, C20-50, hydrotreated neutral oil- based, high- viscosity	Lubricating oils, petroleum, C20-50, hydrotreated neutral oil- based, high-viscosity	1,3	2010	33, 100F		なし		K	2011	A4	2003	第1群	1977	2		両方評価あり	IARC, EUが1~2B相当評価書を入力			有	カテゴリ
162	C-2162		S-3707	72623-86-0	水素化中性油 を原料とする 潤滑油 (C15 ~30)	Lubricating oils (petroleum), C15-30, hydrotreated neutral oil- based	1,3	2010	33, 100F		なし		K	2011	A4	2003	第1群	1977	2		両方評価あり	IARC, EUが1~2B相当評価書を入力			有	カテゴリ
163	C-2163		S-3708	72623-87-1	水素化中性油 を原料とする 潤滑油 (C20 ~50)	Lubricating oils (petroleum), C20-50, hydrotreated neutral oil- based	1,3	2010	33, 100F		なし		K	2011	A2,A4	2003	第1群	1977	2		両方評価あり	IARC, EUが1~2B相当評価書を入力			有	カテゴリ
164	C-2164		S-3794	90640-84-9	クレオソートオ イル, アセナ フテン 留分(別 名ウオッシュ オイル)	Creosote oil, acenaphthene fraction	2A	2010	82		B1	1988	なし		なし		第2群A		2		両方評価あり	IARC, EUが1~2B相当評価書を入力			不要	カテゴリ

## ●両方の評価あり、IARCが1~2B、他機関がIARCの1~2B相当【8物質】